

避難指示区域ではイノシシ、 アライグマ、ハクビシンの出現頻度は高い

福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付実証(県による実証研究)

研究課題名 広域的な鳥獣被害防止手法の開発

担当者 奥田加奈、柳田和弘

I 実証技術の解説

1 要旨

避難指示により立入が制限されている「避難指示区域」、震災後も営農が継続された「営農継続地」、立入の制限はないが津波被災により営農が再開されていない「津波被災地」における農地周辺の鳥獣出現頻度を自動撮影カメラを使用して調査したところ、「避難指示区域」では、イノシシ、アライグマ、ハクビシンの出現頻度は高かった。

(1) いずれの区域においても、アライグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、ハクビシンが撮影された。

(図1、表1)。

(2) 「避難指示区域」では、イノシシ、アライグマ、ハクビシンが多く撮影され、出現頻度は高かった

(表1)。

2 期待される効果

(1) 営農再開に当たって実施すべき対策を検討する際の参考資料となる。

3 活用上の留意点

(1) 調査期間は平成28年4月～7月である。

(2) 調査地点は、「避難指示区域」が浪江町3か所、「営農継続地」が南相馬市と相馬市各1か所、「津波被災地」が南相馬市3か所とし、1か所につき自動撮影カメラを3台設置(撮影間隔5分)、約10日間撮影後、同地域の別の場所に移動して撮影した。

II 具体的データ等



図1 自動撮影カメラで撮影された鳥獣
(左上:アライグマ、右上:イノシシ、左下:キツネ、右下:ハクビシン)

表1 各調査区域における鳥獣の出現回数と出現頻度[※]

区域	アライグマ	イノシシ	キツネ	タヌキ	ハクビシン
営農継続地	1 (0.00)	6 (0.01)	59 (0.12)	97 (0.20)	9 (0.02)
津波被災地	24 (0.03)	8 (0.01)	217 (0.31)	166 (0.24)	5 (0.01)
避難指示区域	234 (0.30)	473 (0.61)	392 (0.50)	214 (0.28)	207 (0.27)

注) ()内は出現頻度:自動撮影カメラで撮影された回数/調査延べ日数

調査延べ日数:「営農継続地」492日、「津波被災地」699日、「避難指示区域」778日

調査期間:平成28年4月~7月

III その他

- 1 執筆者 柳田和弘
- 2 実施期間 平成28年度
- 3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等) なし